



# 学校図書館 司書だより

No.23  
2015年12月



## 図書館クイズ

『ぐりとぐらのおきやくさま』のおはなして  
やってきたのは、サンタクロース。  
さて、サンタクロースからの  
プレゼントは  
なんだったでしょうか？



## 本と読書

### 本に育まれた好奇心

磯部 美紀

今年、私は子どもたちの学校の役員が回ってきました。その役の中には、年に数回、朝の会の時間に、一つのクラスで、一〜二冊の本を読み聞かせするという役も、含まれていました。

役員になる前にも、本読みボランティアとして、度々学校へうかがっておりましたが、役員になった今でも、やはり毎回、入室時には緊張します。それでも私の「本が好き」という思いだけは、なんとか皆さんに伝えたいという気持ちで、ページをめくっていくのです。

子ども達の前に座り、本を読み始めると、一瞬、水をうったようにシーンとなったり、また、アハハと大声を出して笑って聞いてくれたりします。その瞬間に、一冊の本の世界を、今、共有しているのだと思え、心の中がホワツと温まるような喜びを感じるのです。読み手冥利に尽きるとは、この事です。私も、幼少の頃には、毎晩のように両親が本を読んでくれました。そして最後は必ず、今は亡き父が、少々音程のはずれた「月の砂漠」を、子守り唄として歌ってくれていた記憶があります。やはりそのおかげで、私

も読書が大好きになりました。小学生の頃は、伝記、推理小説、SF小説、中学生の頃は、車輪の下や坊ちゃんなどの物語を、夢中になって読んでいたように思います。

そのおかげか、私はたくさん本の中から「好奇心」という種を心の中に植えてもらったようです。大人になった今でも、面白いもの大好き、大笑い大好き、いろいろなのお話を聞くのも大好きと、少々おとなげない好奇心が、常に心の中に大きく陣取っているように思えるのです。

以前、市内の三和町に、野生のサルが出ると聞き、動物好きの私の好奇心が、ふつとふくらんでいきました。もう、サルが見たくて仕方ありません。当時五年生と三年生だった我が子を引きつれ、おにぎりや、大きな「好奇心」をリュックに詰め、市内を走るあいあいバスに乗って「サル探しツアー」を敢行しました。親切な運転さんにサルの出現ポイントを教えてもらいながら、

くれたはずだよねえ」と、親子三人で勝手に想像をふくらませ、楽しんでいるのです。

本からもらった好奇心、そして、親子のふれ合い、次に広がっていった学校での読みかせ、全て本がきっかけでくれたご縁です。それらを大切に、我が子や、本を待っていてくれる子ども達の前で、ドキドキしたり笑い合いながら、これからも一緒に、たくさん本を楽しめることを、願ってやみませ

ん。

磯部さんは、十一月に東図書館で行った子育て学習会「子育てに本を」第二回F-Oビブリオバトル(おすすめの本を紹介しあう合戦)で『チャンプ本』(いちばん読みたくなった本)に選ばれました。紹介された本は、デイビッド・シヤノン作「だめよ、デイビッド!」でした。



他にもこんな本が紹介されました。

- ・かこさとし作 「からのすのパンやさん」
- ・モーディカイイ・ガースティン作 「綱渡りの男」
- ・新田次郎作 「強力伝」
- ・松谷みよ子作 「ちいさいモモちゃん」
- ・バーバラ・クーニー作 「おおきななみ」

読んでみてください!



「親子遠足」になってしまいました。それでも帰宅後は、「きつとおサルさん達は山の中から私達に気付いて

# 読書タイム

市内の学校・園・施設の  
子どもと読書をのぞいてみました



また、児童により多くの本に触れてもらおうと授業で本を借りる日を「ダブルブックデー」とし、一回に借りられる冊数を二冊に増やしました。一冊は自分の読みたい本、もう一冊は並行読書兼ねて学習している内容に関係している本や、担任が決めたテーマに合う本を借りるようにしています。また図書館司書の方の協力を得て、学習内容に合った本の紹介や読み聞かせをしていただき、児童たちは読書への関心をもったり、物語に浸つ

本校では、朝の会の七分間を朝活動として様々な活動を行っていています。その中で月曜日を「読書活動」として位置づけ、全校一斉に読書を行います。以前は八時一五分から始めていた読書活動も、登校して準備した児童から読書を始めることにしたこと、八時前後から校舎内は集中して読書をする雰囲気が出ており、しつとりと一週間のスタートができます。

① 日常の読書活動や読書指導  
本校では、朝の会の七分間を朝活動として様々な活動を行っていています。その中で月曜日を「読書活動」として位置づけ、全校一斉に読書を行います。以前は八時一五分から始めていた読書活動も、登校して準備した児童から読書を始めることにしたこと、八時前後から校舎内は集中して読書をする雰囲気が出ており、しつとりと一週間のスタートができます。

下米田小学校では、全国学力・学習状況調査から子どもたちの読書状況改善し、子どもたちがもっと本に親しむを感じ、楽しく読むことができることを大切にしています。その実現に向けて、日々の読書活動から授業における読書指導、委員会による読書企画活動、そして地域や家族と触れ合う読書活動と、学校生活や家庭の中で読書活動が溢れる取り組みを行っています。

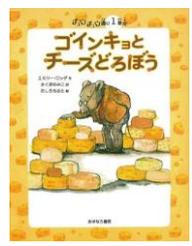
## 下米田小学校



② 図書館まつり  
図書委員会を中心に年二回（六月、十一月）「図書館まつり」を行っています。目玉として六月はくじ引き、十一月はスタンプ集めを行いました。くじ引きでは、当たりが出るとしおりをもらうか、三冊借りるかを選択します。スタンプ集めでは、回数を重ねるとしおりがもらえたり、三冊借りたりすることが出来ます。しかしスタンプは簡単に手に入りません。読んだ本の簡単な感想を、図書委員に伝えることで押してもらうことができます。しおりや三冊借りることは児童にとつてとても魅力があり、この期間は特に図書館がにぎわいます。

③ 地域や家族と触れ合う読書活動  
本校の保護者を中心とした「ママのぼけっと」という読み聞かせサークルの方を図書館まつりにお招きして、全校児童を対象に読み聞かせをしていただいています。大型スクリーンに映し出された絵本を食い入るようにつめる児童が印象的です。併せて家族読書にも取り組んでいます。親子で読書する方法をいくつかに分け、家庭に合ったスタイルで読書ができるようにしました。親子で感想を交流することで、読むことの楽しさや感動を分かち合えるよさを味わいました。全校児童が本に親しみ、本の楽しさを味わって心から読書が好きになるよう今後全職員で読書指導に取り組んでいきたいと思います。

クイズの答え：大きなケーキ



「おもいのたけ」  
きむらゆういち作  
えほんの杜 1333円十税  
オンドロロン、オンドロロンという奇妙な音のする洞窟の中にふしぎなキノコがはえていた。次々と動物たちを招き寄せ、心の叫びを吐きださせる。悪口、文句、嘆き、告白、感謝…みんなの思いを受け取ったキノコはどんどん大きくなっていきます…。ラストもすっきり！絵もすてき！

「この本読んでみて！」  
「ゴインキョとチーズどろぼう」  
ズどろぼう」  
エミリー・ロッダ作  
あすなる書房 900円十税  
チュウチュウ通りの一番地に住んでいるハツカネズミのおじいさん、ゴインキョはどつきりお宝（つまりチーズ）を持っていて、みんなにごちそうしてくれる。がある日、怪しいガードマンの三人組がやってきて、だまされて！チュウチュウ通りに住む十番地までのネズミたちのお話が10巻まであります。一人で本を読み始めた子にぴったりです。



### この本読んでみて！



「きよこ」  
重松 清作  
新潮社 521円十税  
言葉がつかえて口から上手く出てこない・吃音の少年きよしは、いつもひとりぼっちだった。クリスマス之夜に出会った不思議な「きよしこ」と共に、伝えたかった本当の気持ちを抱きかかっていた本気の気持ちを体いっばいに抱えながら成長してゆく物語。著者自身がモデルの珠玉の一冊です。  
「地元学をはじめよう」  
吉本哲郎 著 岩波書店  
907円十税

水俣病という公害は、小学校の社会で習うのでどなたも言葉としては知っているでしょう。しかし、病と戦う人がいることだけでなく、地域内外で人間関係に不信感が生じたこと、その過去から環境モデル都市として世界からも注目されるようになったことは、あまり知られていないのではないのでしょうか。人と人とのまやいなおし、まちにあるものさがしでわくわくする地域ができあがる。どんなに長く住んでいても、きつと面白い発見があります。地元学やってみませんか。

